



花 ご よ み



キボウシ



オニユリ



アベリア



マンリョウ



マルバフジバカマ



つりしのぶ

つりしのぶ(吊忍、釣忍)は、木炭や竹などの芯材にシダ植物のシノブの茎を巻き付け、形を作ったものです。江戸の中期ごろ家々の軒先に吊るし、夏の風物詩として庶民に親しまれました。

シノブは、園内にはありませんが、日本全国に分布しているシダ植物です。低山から山地の岩の上や樹木の樹皮上に太い茎を伸ばし、所々から葉を出して群落を形成します。強健で乾燥に強く土がなくても「たえ忍ぶ」ということが名前の由来といわれています。



番号の場所で
ご覧いただけます

今年の夏は正門前に「つりしのぶ」
を設置しました。

「つりしのぶ」は夏の風物詩として
江戸時代から楽しまれてきました。
古き良き“日本の夏”を風鈴の音とともに、ぜひご観賞ください。



ミソハギ



ハギ

2017年
7月20日
168号

発行

公財)東京動物園協会
井の頭自然文化園